

62 澁谷慥爾氏の葬儀

〔『法学新報』第四七号 明治二十八年二月二十八日〕

○同氏の葬儀

本月二日午后一時下高輪同氏の宅より出棺二本榎なる常行寺へ葬りたるか同氏か同窓なる法学士諸氏をはじめ同氏生前の知友たる各裁判所判検事各省の高等官たる人々及弁護士と同業と同氏の創立に係る東京法学院及同氏の講師たりし東京専門学校海軍主計学校の卒業生等会葬者千余名也鄭重なる仏式ありて后東京法学院講師総代として山田喜之助氏祭文を朗読し次て法学院々々友総代北岡保定氏法学士会総代鈴木充美氏花井卓藏氏及大原鎌三郎氏等順次吊文を朗読せり其盛儀近來稀れに見る所也同日山田学士の朗読せる祭文は左に掲げて以て哀悼の意を布く又澁谷氏の詳伝は花井卓藏氏に於て目下材料蒐集中也日ならずして稿を脱すへきを以て次号の本紙に掲げんとす

維明治二十八年二月二日。東京法学院講師法学士山田喜之助。

代東京法学院同衆。恭具清羞之奠祭故東京法学院講師法学士澁谷慥爾君之靈。』嗚呼悲哉。君質之美。崎嶇嶮嶺。竟致夭

死。交人温厚。襟懷如水。出処進退。有譽無毀。創法學院。
薰灼子弟。門下桃李。多士濟々。昨接訃音。哀痛曷已。品海
湯々。芝山巖々。枕唄声幽。万人掩涕。設祭致誠。聊以獻誄。』
嗚呼。悲哉。尚饗。